

⑥ 名古屋アフリカ移住者センター

- 課題
- ① 活動資金の不足
 - ② スタッフ等人材の不足
 - ③ アフリカに対する無理解による差別・偏見

■取組提案

- ① 活動資金を確保するための情報提供を行う
- ② ボランティアを増やすため、団体をPRするパンフレットを作成する
- ③ アフリカのイメージを向上させるための取り組みを行う

■サポートの流れ

日付	場所	詳細
2011年 10月5日(水)	Zicofe	団体の活動についてヒアリングを行う
10月12日(水)	Zicofe	団体の活動についてヒアリングを行う
2011年 11月27日(土)	刈谷市産業振興センター	広報研修に参加し、ボランティアを募るために効果的なパンフレットの作り方を学ぶ(②)
		今後のサポートについて流れと内容について相談を行う
2012年 1月11日(水)	Zicofe	パンフレットの内容について相談する(②)
2012年 1月15日(日)	名古屋都市センター	資金研修を受講し、活動資金について知識を深める(①)
		パンフレットの内容について相談する(②)
1月26日(木)	Zicofe	パンフレットの内容について相談する(②)
2月8日(水)	Zicofe	パンフレットの最終確認と、今後のサポートについて確認する(①,②)
2月12日(日)		料理教室の日程、場所の決定(③)
2月中旬	Zicofe	寄付を募るためのチラシを制作する(①)
2月20日(月)	Zicofe	料理教室の詳細決定(メニュー、参加費、参加人数など)、会場予約(③)
2月26日(日)	ナディアパーク アトリウム	「外国人コミュニティフェア2012」にて、作成したパンフレットやチラシを使用して、活動をPRする(②)
3月17日(土)	中村生涯学習センター	ウガンダ料理教室開催(③)

名古屋アフリカ移住者センターは設立当初から、少人数で支援が必要な同胞をサポートしてきた。サポートは日本の支援機関と連携して行ってきたが、常に資金は不足しており、

その都度同胞から寄付を募り活動を継続してきた。個別サポートを通じて、同胞以外からの寄付やその他の資金を募る方法をともに検討し、日本人向けに活動を紹介するパンフレットを作成した。パンフレットは日本人が多く集まるイベントで配布するとともに、アフリカ人に対する差別や偏見を改善するために開催した料理教室でも配布し、気軽にアフリカを知り親しむ場を通して団体の活動を紹介するとともにアフリカのイメージ向上を図った。

■「名古屋アフリカ移住者センター」の個別サポートを担当したスタッフの声

・出会ってすぐのころは警戒心のせい、なかなか心だけではなく口も開いてくれないように感じた為、友達になることから始めました。顔と名前を覚えてもらうために、プライベートの時間を利用して、何度か直接会いに行きました。会うときは、いつも明るく優しく接するように心がけました。ヒアリング、研修、フィールドワークにおいては、強制ではないことを必ず始めに伝えました。初めのころは英語でコミュニケーションを取っていましたが、日本語を学んでもらうために徐々に易しい日本語でコミュニケーションを取るようになりました。話の内容が難しい時や相手が感情的になっている時だけ、本音で話がしやすいように英語に切り替えたりしました。何もしてあげられませんが少しでも気持ち楽になればと思い、嫌な顔をせず愚痴や不満でも最後まで聞くようにしました。電話でのやり取りも可能でしたが、できるだけ会いに行くようにしました。日本のルールを覚えてもらうために、会いに行く時は必ず約束時間に行きました。スケジュールをどこかにメモしている様子がなかった為、研修のときなどは数日前に理由をつけては会いに行き、研修のことを念押し伝えました。宗教上豚肉が食べられない為、研修時などの昼食では豚肉を避けた料理を準備しました。

・10月初旬に初めて訪問した時は、活動への意欲もあまり感じられませんでした。「ワールド・コラボ・フェスタ 2011」に名古屋アフリカ移住者センターとして一人でブース出展した際にも、自分からお客さんに声をかけたり商品の説明をしたりはせず、明るい接客とは言えなかった為、入りにくいブースにも感じました。しかし、事業を通して信頼関係が築けてきたからか、2月に行われた「外国人コミュニティフェア 2012」では、他のイベントでもコミュニティフェアのチラシを配布したり、日中に街中でイベントチラシを配ったりと、自ら広報活動を頑張っていました。イベントに対してのモチベーションも高く感じられました。イベント当日はお客さんに積極的にチラシを配ったり、商品の説明をしたりしている姿に驚きました。お客さんとも明るく楽しそうに会話をして接客していました。笑顔の絶えない一日でした。



(写真：集合研修の様子)



(写真：ウガンダ料理教室の様子)

【個別サポートで作成したパンフレット】 * 作成部数：1,000部

【名古屋アフリカ移住者センター】
っげなに?

名古屋アフリカ移住者センターは、アフリカ人移住者と市民が交流し、互いに支えあうことのできる土台をつくるため、2つの文化をつなぐ暮らしたいを実現するための拠点として、名古屋アフリカ人移住者と日本人によって作られました。

移住者たちにその土台がもたらされるべき

- 移住者が移住した後に暮らすための、暮らしの基盤となる生活環境を整えるように努めます。
- 移住者と日本人の心をつなぐことが重要です。
- アフリカ人移住者の生活環境を整えることが重要です。

名古屋アフリカ移住者センターの 会員になりませんか?

私たちが関心している活動内容は、2つの文化があります。

- 1.名古屋アフリカ移住者センターの維持費
 - ・事務所費(水、光、ランニングコスト)が最大
 - ・職員の給与
 - ・活動に必要となる経費
- 2.移住者生活に必要な子どもや高齢者支援
 - ・子育て
 - ・生活支援の提供
 - ・多岐にわたる相談

そして、移住者が自立できるように...

名古屋アフリカ移住者センター

TEL: 090-6613-0180
Email: NCAAM2005@yahoo.com.jp

名古屋アフリカ移住者センター

2つの文化をつなぐ暮らしたい!

心をつなぐため
一つにまとめるため
成長するため



⑦ 保見ヶ丘ブラジル人協会

■課題 ① 活動資金の不足

② 同胞の活動への参加の不足

■取組提案

① 活動資金を確保するための情報提供を行う

② 活動への参加者を増やすため、団体をPRするパンフレットを作成する。

■サポートの流れ

日付	場所	詳細
2011年 9月21日(水)	メンバー自宅	団体の活動についてヒアリングを行う
11月27日(土)	刈谷市産業振興センター	広報研修に参加し、活動参加者を募るために効果的なパンフレットの作り方を学ぶ(②)
この間、電話とメールを中心に状況確認を行う		
2012年 1月15日(日)	名古屋都市センター	資金研修を受講し、活動資金について知識を深める(①)
この間、電話とメールを中心に状況確認を行う		
2月上旬	(電話)	パンフレットの最終確認と、今後のサポートについて確認する(①, ②)
この間、電話とメールを中心に状況確認を行う		
2月26日(日)	ナディアパーク アトリウム	「外国人コミュニティフェア2012」にて、作成したパンフレットを使用して、活動をPRする
3月11日(日)	保見団地集会室	今後のサポートについて相談する
3月19日(月)	メンバー自宅	今後のサポートについて相談する

保見ヶ丘ブラジル人協会はこれまでも日本人スタッフとともに助成金に応募するなど、活動を継続的に行うために工夫をしてきた。集合研修では、助成金以外の活動資金についても知識を深め、今後団体でイベントを企画する際の参考にした。また、今後さらに活動を充実させていくために同胞の活動への参加を促進したいと考えているが、これまでブログ以外に活動を紹介する媒体を持たなかったため、個別サポートを通じてパンフレットを作成した。



(写真：集合研修の様子)

【個別サポートで作成したパンフレット】 * 作成部数：1,000部





⑧ UFCH

■課題 多くの活動を行いたいが、人材不足と資金不足から行うことができない

■取組提案

活動を行うために組織力を高めるとともに、他団体から活動の仕方を学ぶ

■サポートの流れ

日付	場所	詳細
2011年 10月10日(月)	東浦町内のカフェ	団体の活動についてヒアリングを行う
11月12日(土)	東浦町文化センター	「第33回東浦町産業まつり」内でのフィリピン民族舞踊を見学する
2012年 1月8日(日)	みなとハウス	「みなとみなみ日本語の会」が主催する「作ってみよう外国の料理・聞いてみよう外国の家族生活～フィリピンのおやつとお話し」を見学する
2012年 1月15日(日)	名古屋都市センター	資金研修を受講し、活動資金について知識を深める
2月11日(土)	東浦町内の公共施設	FMC 石原バージ氏を招き、組織力アップのための研修を行う
2月12日(日)		フィールドワークツアーに参加し、他団体の取組から活動の仕方を学ぶ
3月10日(土)	東浦町内のカフェ	今後のサポートについて相談する

UFCH は活動を始めたばかりの若い団体である。そのため、今後活動を行っていくうえで基盤となる組織力を高めていく必要があった。個別サポートでは、フィリピン人移住者センター（FMC）代表の石原バージ氏を講師に迎え、継続的に活動を行っていくための組織

づくりについて学んだ。また、フィールドワークツアーを通して、県内3団体の活動を実際に見聞きし、その内容から今後の活動へのヒントを得たようである。



(写真：フィリピン民族舞踊披露の様子)



(写真：組織力アップのための研修の様子)